

資料 2

未定稿

基本構想骨子案 (2025－2040)

2040 年に目指す町の姿



参考イラスト 愛知県常滑市

「第6次常滑市総合計画」より

1. 町が未来へ繋いでいく想い

「美しい海と緑に 笑顔あふれる
心あたたかな ふるさと葉山」

葉山町は三浦半島西北部に位置し、北は逗子市に、南及び東は横須賀市に接し、相模湾沿岸の西部や逗子市方面の北部を中心に市街地が広がっており、東部は山林が多くを占めています。

本町は青い海と緑豊かな丘陵に囲まれた首都圏の温暖な地として親しまれ、明治中期に御用邸が建設されてからは、御用邸の町あるいは保養地として広く知られ発展してきました。

本町は、明治 22（1889）年の町村制実施によって、木古庭、上山口、下山口、一色、堀内、長柄の 6 か村が合併して葉山村となり、大正 14（1925）年 1 月 1 日に町制を施行しました。

そして、令和 7（2025）年 1 月 1 日に町制施行 100 周年を迎えます。別荘地として数々の名士や芸術家・文化人などに愛されてきた歴史。100 年を経た今もなお、多種多様な人々が暮らし、この町の自然や風土、街並みを愛する想い・文化がこの町には根付いています。

第五次葉山町総合計画を策定するにあたっては、令和 5 年 2 月に町民の皆様へアンケート調査を実施しました。この町民アンケート調査のなかで「将来の葉山町に向けた想いやキャッチフレーズ」を聞いたところ、町民の皆様に共通する町の将来への想いを見て取ることができました。

その想いは第四次葉山町総合計画の将来像と共通しており、第四次葉山町総合計画で掲げた将来像である「美しい海と緑に 笑顔あふれる 心あたたかな ふるさと葉山」を継承しつつ、町がこれからの 100 年へ、未来へと想いを繋いでいきます。

2. 葉山町の概要

人口

総人口

住民基本台帳による令和5年10月1日現在の人口は32,339人（高齢化率31.4%）です。平成24年11月にはピークとなる33,890人となりましたが、その後は微減傾向が続いています。

本町の人口増減の特徴としては、転入数が転出数を上回る社会増が続いているものの、死亡数が出生数を上回る自然減が続いており、社会増より自然減が多いことから、微減傾向が続いています。

関東大都市圏としての葉山町

本町は関東大都市圏に位置します。令和2（2020）年国勢調査によると、本町の規模は大都市圏総人口38,034,418人のうち0.08%を占める31,665人であり、215自治体中162番目となる人口規模です。

自然環境

葉山の「海」

三浦半島西北部に位置する葉山海岸は、森戸海岸、芝崎、一色海岸、小磯、大浜海岸、長者ヶ崎海岸という砂浜と岩礁が交互に連なっている南北4キロメートルにおよぶ美しい海岸線です。平成8（1996）年には、「日本の渚百選」に選ばれています。

葉山の「山・川」

本町の南東には大楠山から連なる宝金山や峰山の丘陵、北東に大山、二子山等の丘陵、町の中央に大峰山と3つの山塊があり、これらの山々を水源とする下山川、森戸川が西へ流れ相模湾に注いでいます。

また、本町の林野率は51%で、全県平均39%を上回っており、風光明媚な美しい山と山林に覆われています。

都市機能

医療

本町は規模の小さい自治体のため、町内の医療機関で完結できないこともあります。本町は神奈川県医療計画において「横須賀・三浦二次医療圏」に含まれており、圏内での連携協力体制を構築しています。

消防・救急

複雑化する消防・救急要請に迅速かつ的確に対応すべく、平成 27 年より横須賀市と共同で「横須賀市・葉山町消防指令センター」を設置し、119 番通報の受付、消防車・救急車の出場指令を行っています。

交通・道路

本町には鉄道駅がなく、公共交通はバス・タクシーに限られています。路線バス網は主に JR 逗子駅及び京浜急行逗子・葉山駅への乗り入れを中心とする京浜急行バス(株)の路線バスによって形成されています。

主要幹線道路は、南北に国道 134 号線、沿岸部は県道 207 号線、東西には県道 27 号線などいくつかの国・県道が走り、町道が網の目状に張り巡らされています。

上下水道

本町の上水道は神奈川県営水道の給水区域に含まれています。

下水道は、市街化区域で整備を進めており、令和 7（2025 年）に概成することを目指しています。市街化調整区域は、合併処理浄化槽の普及に務めており、下水道と合併処理浄化槽の処理人口を合わせた污水处理人口普及率は令和 4 年度時点で 87.1%となっています。

地域経済

農業・漁業

総農家数は減少傾向にあり、令和 2（2020）年農林業センサスによると 102 戸でしたが、そのほとんどが自給的農家です。耕地面積 32ha のうち畑が 29ha を占めます。

漁業経営体数は、農家同様に減少傾向にあり、平成 30（2018）年漁業センサスによると、34 経営体でした。

商工業・観光

町内には大規模なショッピングモールなどはなく、スーパー・ドラッグストアを除きその多くが個人経営の商店が中心です。夏の海水浴シーズンには、多くの観光客が訪れます。

歴史・文化

歴史

明治 20 年代からは名士の別荘が続々と建てられ、明治 27（1894）年には葉山御用邸が竣工し、名実ともに別荘地葉山となりました。また、日本ヨット発祥の地としても知られています。

文化

名誉町民である堀口大學をはじめ、数々の文化人も葉山を愛してきました。また、町民主導型のアートフェスティバルである葉山芸術祭も 30 年以上続くなど、豊かな文化が育まれています。

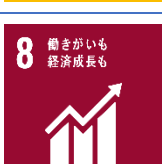
データで見る葉山町

指標名	データ	出典
1 住宅あたり延べ床面積	<u>112.91 m²（県内 1 位）</u>	平成 30 年度住宅土地統計調査
納税義務者 1 人あたり総所得金額	<u>4,447 千円（県内 2 位）</u>	令和 4 年度市町村税課税状況等の調
人口 1 万人あたり 100 歳以上人口	<u>15.9 人（県内 2 位）</u>	神奈川県年齢別人口統計調査結果報告 （令和 5 年 1 月 1 日現在）
人口 1 千人あたり刑法犯認知件数	<u>2.29 件（県内 3 位）</u>	令和 4 年刑法犯罪名別市区町村別認知 件数
人口 100 人あたり犬の登録数	<u>8.04 頭（県内 1 位）</u>	神奈川県 HP ほか
一般廃棄物リサイクル率	<u>50.4%（全国 18 位）</u>	令和 3 年度一般廃棄物処理実態調査
人口 1 人あたり CO ₂ 排出量	<u>3.15 t（県内 2 位）</u>	自治体排出量カルテ令和 2 年度実績

3. 葉山町／世界にとって重要なテーマ

1 葉山町の SDGs

「持続可能な開発目標」として 2015 年の国連サミットで採択された SDGs。世界共通の目標である SDGs は、本計画期間中の 2030 年に目標年次を迎えます。2040 年を見据えつつも、まずは 2030 年の SDGs の達成に向けて、しっかりと取り組んでいきます。

ゴール	説明	葉山町にとっての意義合い／取組み
	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	・ネグレクト、ヤングケアラーなどをケアし、子どもが子どもでいられる環境づくりを進めます。 ・高齢単独世帯に対して、社会的に孤立しないように支援を行います。
	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	・小中学校給食を安全・安心に提供し続けます。 ・子ども食堂の取組みを支援し、孤食を防ぎます。 ・地域内食料自給率を上げるため、地産地消の取組みを支援します。
	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	・顔の見える地域福祉を構築すべく推進します。 ・未病予防の推進をし、健康・長寿のまちを目指します。
	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	・葉山らしい小中一貫教育を推進します。 ・子どもだけでなく、大人もワクワクする生涯学習の実現に向けて取り組みます。
	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	・葉山町役場の全体に占める、係長相当職以上の女性職員の割合を向上させます。 ・葉山町役場の男女比率等を公開し、男女格差の是正及び啓発に努めます。
	すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	・下水道及び合併処理浄化槽の普及を推進し、汚水処理人口 100%を目指します。
	すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	・役場等に太陽光発電システムの設置や電気自動車、再生可能エネルギー由来の電力等を導入します。 ・町内の再生可能エネルギーの導入促進に努めます。
	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する	・待機児童ゼロを目指し、女性が働きやすい環境づくりを推進します。 ・男性の育児休暇取得の向上を目指します。

ゴール	説明	葉山町にとっての意義合い／取組み
	強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る	・地場産業を葉山ブランド化・六次産業化できるよう取組みを支援します。 ・ふるさと納税への取組みを強化し、地場産業の活性化に繋がります。
	国内および国家間の格差を是正する	・町民と関係者が相手を尊重して助け合う関係づくりをめざします。 ・LGBTQ+等のマイノリティへの不平等を無くせるよう、パートナーシップ制度等の自治体間・官民連携を検討し、更なる啓発に努めます。
	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	・大規模災害発生時に備え、地域防災力を向上させるため、地域での避難訓練等の取組みを推進します。 ・災害を防災・減災させるため、耐震補強や土砂災害防止対策について、関係機関と連携しながら推進します。
	持続可能な消費と生産のパターンを確保する	・循環型社会、ゼロウェイスト社会を目指し、ごみの資源化・減量化を推進します。 ・はやまエシカルアクションを推進し、自然環境・人や社会・地域を思いやった行動を世界へ発信します。
	気候変動に具体的な対策を	・2030 年までに 2013 年度比で温室効果ガスを 46%削減し、2050 年にはカーボンニュートラルを実現します。
	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	・はやまクリーンプログラムを推進し、海洋プラ対策に努めます。 ・磯焼けからの藻場再生、ブルーカーボンへの取り組みを推進します。
	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る	・生態系に大きな影響を及ぼすおそれのある外来生物や、人の生活に被害を与える有害鳥獣の対策を推進することで、町の在来生物や貴重な生態系を守ります。
	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	・地域ぐるみで防犯対策・交通安全対策を進め、犯罪・交通事故の発生を減少させます。
	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	・複数の自治体にまたがる広域的な課題に対応するために、県や他自治体との連携・協力による取組みを推進します。

○ 特に取り組むべきゴール

町民アンケート調査で回答のあった「基本施策の今後の重要度」の結果が高かった基本施策を SDGs のゴールに当てはめると、No.11、3、12、16、8 と続きます。

それに加え、葉山町の特徴を活かしつつ、持続可能な社会へしていくための重要だと考えるゴールとして No.4、14、15 を加え、この2つのゴールを組み合わせ、その中から6つのゴールを特に取り組むべきゴールとして推進していきます。



2 2040 年を見据えた考え方

葉山町は、第二次世界大戦後、日本の経済成長とともに人口が増え、首都圏のベッドタウンとして発展してきました。それは、町に様々な恩恵をもたらした一方で、大量生産・大量消費といった物質的な豊かさでの発展だったとも言えます。

しかし、これから迎える人口減少社会・超高齢化社会においては、今までの物質的な豊かさを追い求めていくことは難しく、それに加えて、脱炭素に向けての取り組みなど地球環境への対応も求められる時代になっていきます。

そういった背景を受けて、近年、物質的な豊かさよりも精神的な豊かさを追求する動きが、世界や日本において広がっています。精神的な豊かさとはウェルビーイングとも言われます。ウェルビーイングは「肉体的・精神的・社会的に満たされた状態」、「持続性のある幸せ」などと言われますが、ウェルビーイングを構成する要素として、「自己実現」「前向き」「繋がり」「自立」などがあるとされています。

このような要素は、一人ひとりの人生だけではなく、これからのまちづくり・行政にとっても目標とすべき重要な要素と考えます。それは、縮小していく社会であっても、全ての人々が前向きに期待の持てる町にしていけることが、これからの行政が求められる役割の1つだと考えるからです。

これからの社会に向けて町が担う役割の1つは、「町民がそれぞれの多様な幸せを目指すことができる土壌づくり」です。それは、葉山に関わるわた

したちにとって、「自分らしくいられるまち」と「人と人が繋がるまち」です。

「自分らしくいられるまち」とは、一人ひとりが尊重され、社会から孤立することなく、自分らしくのびのびと暮らすことができるまちのことです。

「人と人が繋がるまち」とは、自立しながらも顔の見える関係性を築いていくことができるまちです。それはただ単に人が集まる新たなコミュニティ施設を作るということだけではなく、精神的・社会的な繋がりを感じられる機会のことです。

葉山町には年齢・性別・国籍などを問わず多種多様な人々が暮らしています。人々の幸せはそれぞれのカタチであるべきですが、様々な花が咲き誇る土のように、その幸せを実現できるための下地を作っていきたい。そういった「自分らしく、人と繋がれるまち」が、新たな地域コミュニティのかたちだと思います。

新たな地域コミュニティが花咲く町をつくるために、葉山町は「子育てし
たくなるまち」「住み続けたいくなるまち」「好きと言いたくなるまち」という
3つの目指すまちの姿を掲げ、2040年に向けて進んでいきます。

4. 2040 年に目指す町の姿

2040 年を見据えた考え方や、町民アンケート調査・町民ワーキンググループで答えのあった町の将来に向けた想いを踏まえ、2040 年に目指す町の姿を次のように設定します。

新たな地域コミュニティ

子育てしたくなるまち

豊かな美しい自然の中で、のびのびと子どもを育てられるまち。
葉山らしさを活かした小中一貫教育が受けられるまち。
地域と関わり合い、子どもの居場所だけでなく、大人の居場所も作って
いけるまち。
子どもだけでなく、親も学び、やりたいことをできるまち。
そんな「子育てしたくなる」と思えるまちを目指していきます。

住み続けたくなるまち

子どもから高齢者まで、何歳になっても社会・地域と関わり合い、繋がる
ことができるまち。
地域と共に防災・減災へ対応し、これからの 100 年も安心・安全に住み
続けられるまち。
ゆとりのある街並みの中で、穏やかでかつ自由な気風を誰もが感じられ
るまち。
そんな「住み続けたくなる」と思えるまちを目指していきます。

好きと言いたくなるまち

御用邸や日本ヨット発祥の地などのこれまでの歴史を紡いできたまち。
山と海・川が連携した産業が活性化し、地産地消が根付いているまち。
町民と共に未来へ自然を守り、受け継いでいく環境貢献のまち。
町に関わる人々が織りなす多様な文化・芸術を愛するまち。
そんな「葉山町が好き」と言いたくなる、そして、町外の人には「いつ
かは葉山へ」と思われるまちを目指していきます。

～2040 年の葉山みらい日記～

子育てしたくなるまち

13 歳中学生の日記

学校で「はやま科」の授業があった。「はやま科」は小学校から続いている授業で、今日は地域の NPO 団体から環境貢献の話を聞いた。世界から葉山の話まで色々なことを聞いたけど、私に何ができるのだろう。自分ができることを一つずつしていきたいな。

そういえば、今朝おじいちゃんが学校に行くって言っていた。近所の人と貯筋体操をしに行くんだって。学校の周りには色々な人が集まっていて、学校に行くのが私は楽しい。

38 歳母親の日記

今日は久しぶりに休みが取れたから 5 歳の息子と一色海岸に行った。磯でつけた生物を私に教えてくれた。保育園ではこの間、南郷上ノ山公園に行ったみたい。葉山は海も山も近く、町にいただけで自然を感じられる。息子ものびのびと成長していると思う。

今思うと、息子を保育園に入れることができて、本当に良かった。自分のキャリアも実現していきたいし、息子も葉山の中で育ってくれている。明日からも夫と一緒に仕事も育児もがんばろうね。

42 歳父親の日記

子どもが生まれて、色々な出会いがあった。妻も自分も働いている我が家にとっては、地域の人が見てくれる学童はとても助かっている。

明日も学童で出会った保護者の方と、子どもと一緒にワークショップへ行く。ワークショップは学校でやるのだそう。葉山の学校は小中一貫校というだけでなく、地域の集会所にもなっていて、行く度に新たな出会いがある。大人になってもワクワクできるのは少し気恥ずかしくもあるが、地域の人と顔なじみになれるのは嬉しい。

住み続けたくなるまち

82 歳女性の日記

今日はデイサービスに行った。デイサービスへは近所の人を送ってくれた。この年齢になって近所の人と繋がりがあるのは、凄く安心するわ。免許を返納したから外出しづらくなっていたけど、こうやって声を掛けてくれるのは嬉しいし、外に出てみようという気になる。明日は近所の人と下山口の健康の散歩道を歩くのが楽しみ。

47 歳男性の日記

子どもが風邪を引いてしまい、病院へ。子どもの医療費が無料なのは本当に助かる。この間、近所の人に聞いた話によると、葉山には総合病院はないけれど、いざという時はしっかりと連携しているようだ。

それでも、まずは病気にならないことが一番大事。そういえば、広報葉山に未病予防の講座が載っていた。Web 講座は気軽に参加できるから助かるな。

54 歳女性の日記

今日は堀内防災広場で防災訓練があった。役場の職員の指導してもらって、有事に備えて様々な訓練を行ったんだけど、驚いたことに、参加者の顔ぶれが様々だったわ。高校生のような若者、30 代ぐらいの夫婦、そして高齢者まで。もし避難所に行くことになっても、顔を知っている人たちがいれば、きっと安心するよね。

70 歳男性の日記

仕事を退職し葉山で過ごす時間が多くなった。葉山で過ごしていると、ゆったりとした空気が流れていると感じる。確かに周りを見渡せば、家々の間隔もあり、ゆとりのある街並みだ。海や山だけでなく、街並みの中に緑もあると言うのは過ごしていて気持ちがいい。

細い道も多いが、車が入りづらいからか、子どもたちが道で遊び、犬の散歩をしている人も多く見かける。この街並みと人の営みが葉山の空気感をもたらせているのかもしれない。

好きと言いたくなるまち

8歳小学生の日記

家族で行った朝市でパパがワカメを買いました。パパが「このワカメは葉山のワカメなんだ」って言ってました。朝市のあとはハヤマステーションへ行って、ママが野さいを買いました。そういえば、この間の学校で「地さん地消」って習ったけど、このワカメや野さいを食べることがそのことな気がします。

葉山で買う食べものはどれもおいしくて好きだし、きゅう食も「地さん地消」のこんだてが多いって知ってびっくりしました。

34歳男性の日記

結婚を機に葉山へ帰ってきて、2か月が経った。久しぶりの葉山は昔と変わらず、環境への意識が高い人が多いと感じる。18歳で葉山を出て都会に住んでみて驚いたのはごみの分別の簡単さだった。葉山に比べて楽に感じたけど、環境に良いとは思えず、なんだかむずがゆい気持ちだった。

葉山では今もビーチクリーンをしている人が多いし、はやまエシカルアクションもまだ続いている。エシカルアクションは色々な地域へ広がっているらしい。葉山では当たり前の環境への意識も、ちょっと誇らしい気持ちになる。いつか子どもが生まれるときのためにも、これからも環境へ貢献していきたい。

来月には大学の友人たちが葉山に遊びに来る。葉山は良いとこだぞって自慢しようか。

23歳女性の日記

今日、初めて葉山へ行った。海の近くのまちで、森戸海岸からは富士山が見えてきれいだったなあ。海はヨットが多く見えたけど、日本ヨット発祥の地だって友達から聞いて納得した。友達は葉山に何度も行ったことがあるみたいで、御用邸とか美味しいご飯屋さんとか色々教えてもらって、お洒落なお店が多くて、私もすっかり葉山が好きになっちゃった。

そういえば、来月には葉山芸術祭っていうのがあるみたい。アートも好きだし、友達誘って行ってみようかな。

5. 踏まえるべき社会情勢

1. 人口減少社会への突入

我が国は平成 23（2011）年に人口減少社会「元年」を迎えました。それは本町においても例外ではなく、平成 22（2010）年に人口のピークを迎え、平成 23（2011）年から人口の微減傾向が続いています。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、テレワーク等の新しい生活様式の定着に伴い都市部から地方への移住意識が高まったことで、本町も令和 2（2020）年には人口増へ転じましたが、その後は再度減少し始めています。このことから、本町も明確に人口減少社会へ突入したと言えます。

2. 先の見えない時代の到来

少子高齢化の加速、人口減少社会の到来などの社会構造の変化とともに、気候危機による自然災害の頻発、新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大、ロシアによるウクライナへの侵攻、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展、AI の急速な普及など、予測を超える速さで社会や経済が変動する VUCA（ブーカ）の時代が到来しています。

3. ポストコロナ社会に向けて

令和 2（2020）年に世界中で感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、国内においても緊急事態宣言の発令等により全国一斉休校、外出の自粛、店舗の営業自粛など、生活環境や社会経済に大きな影響を及ぼしました。

令和 5（2023）年 5 月に 5 類感染症へ移行したことでコロナ禍は終わりを迎えたものの、ポストコロナ社会に向けて、コロナ禍以前の社会に戻るのではなく、感染症の影響によって定着した「新しい生活様式」の価値観等に対応し、そして、今後新たな感染症が発生した場合にも適応することが重要です。

4. 地球温暖化の深刻化

地球温暖化の深刻化によって、世界中で様々な異常気象が観測され、猛暑や干ばつ、台風の巨大化等による甚大な被害が発生し、もはや気候危機であると言われています。

本町はこれまでも町の美しい自然を未来へ継承するための取組みを進めてきましたが、気候危機が本町にとっても著しい脅威となっていることを認識し、全町一丸となって気候非常事態に取り組んでいくため、令和 3（2021）年 3 月に「はやま気候非常事態宣言」を表明しました。

5. 災害への意識の高まり

近年、我が国では災害が激甚化・頻発化し、各地で甚大な被害が発生しています。加えて、近い将来における首都直下地震などの大規模な地震発生リスクが指摘されており、災害への意識が高まっています。

本町においても、令和元（2019）年東日本台風では大規模停電が発生するなどの被害を受けました。そこで令和 4（2022）年に神奈川県との合同総合防災訓練「ビッグレスキューかながわ」を実施するなど、来る災害に向けて取組みを進めています。

6. DX・デジタル化の急速な拡がり

近年、デジタル技術の進展や新型コロナウイルス感染症の影響等を背景に、IoT、AI、ロボットなど、社会のデジタル化が急速に浸透してきています。

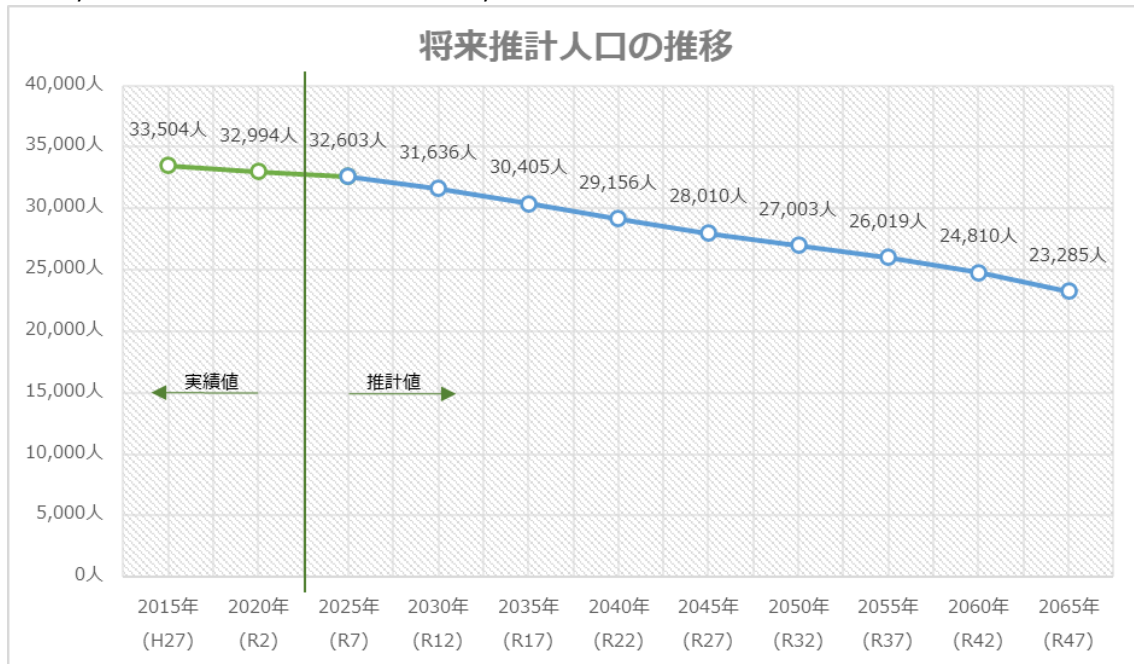
国は令和 3（2021）年に「デジタル社会形成基本法」を制定するとともに、令和 4（2022）年には「デジタル田園都市国家構想基本方針」を策定し、デジタル社会の力を活用した社会課題の解決を目指しています。

町では、令和 5（2023）年 10 月に「葉山町 DX 推進基本方針」を策定し、DX 化に向けて取組みを推進しています。

6. 将来人口

1 将来人口（※人口推計の結果が出次第、更新します）

2015（平成 27）年と 2020（令和 2）年を基礎としたコーホート法による住民基本台帳人口推計によると、今後も人口減少が続き、2040 年には 30,000 人を、2060 年には 25,000 人を切るという推計がされています。



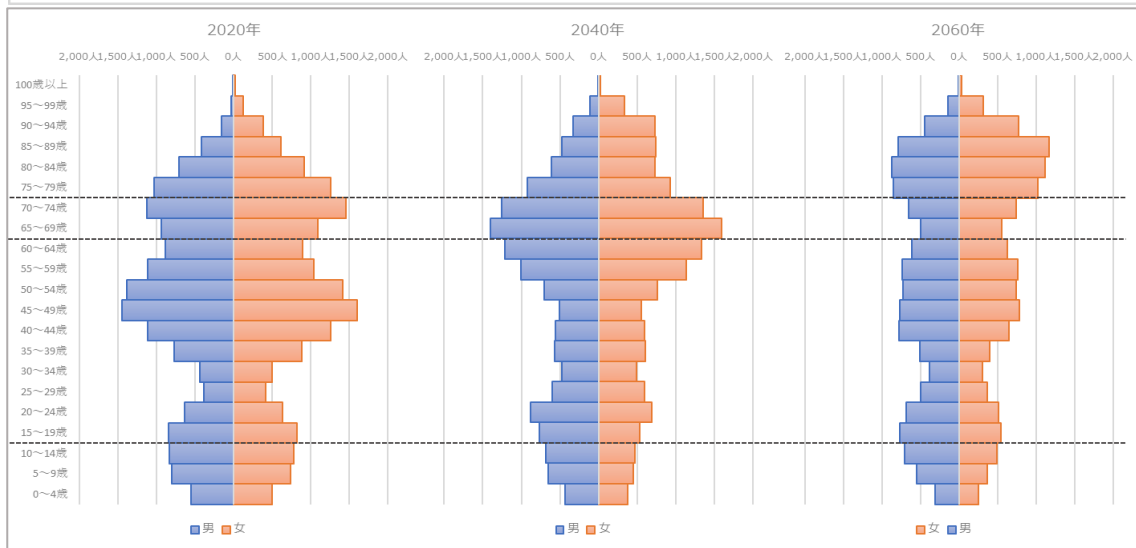
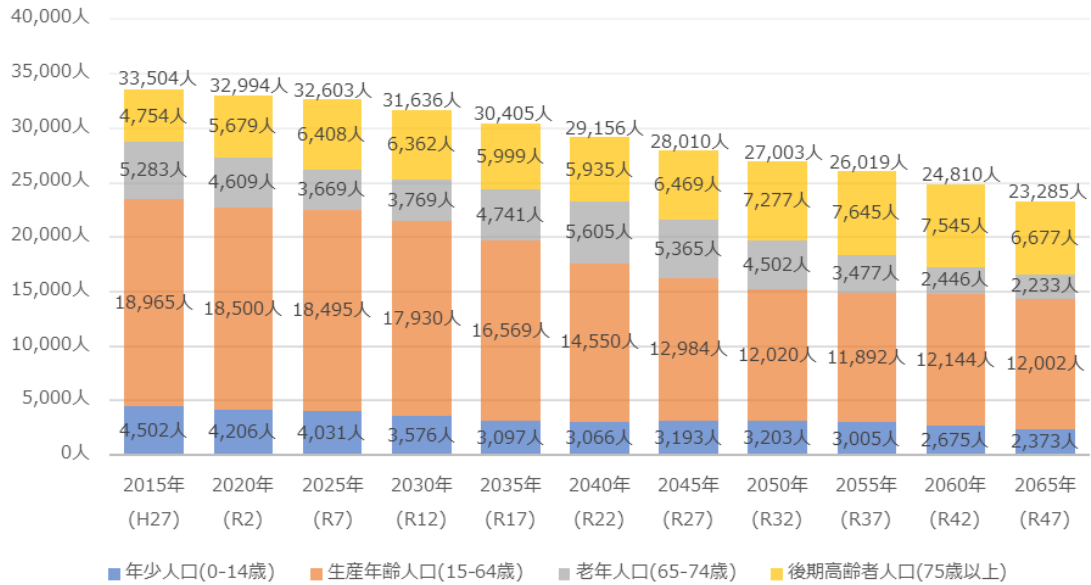
2 年齢区分毎人口推計

年齢区分別（年少人口：0-14 歳、生産年齢人口：15-64 歳、老年人口：65-74 歳、後期高齢者人口：75 歳）の人口推計を見ると、年少人口と生産年齢人口は減少が続く中、老年人口と後期高齢者人口は増加を続けます。2040 年問題と言われる 2040 年には老年人口がピークを迎え、高齢化率は 39.6%、2045 年には 42.2%と非常に高くなっていきます。

2020 年比で見ると、2040 年の人口は総数で△11.6%減少し、生産年齢人口は△21.4%、年少人口は△27.1%減少します。総人口の減少スピードを上回る早さで、生産年齢人口・年少人口が減少していきます。その一方で、老年人口は+21.6%、後期高齢者人口は+4.5%の増加が見られることから、超高齢化社会へ進展していくことが見て取れます。

人口ピラミッドでの推移を見ると、2040 年に老年人口が多くなる傾向が顕著に見え、2060 年には全世代が縮小していることが良くわかります。

年齢区分別人口推計の推移

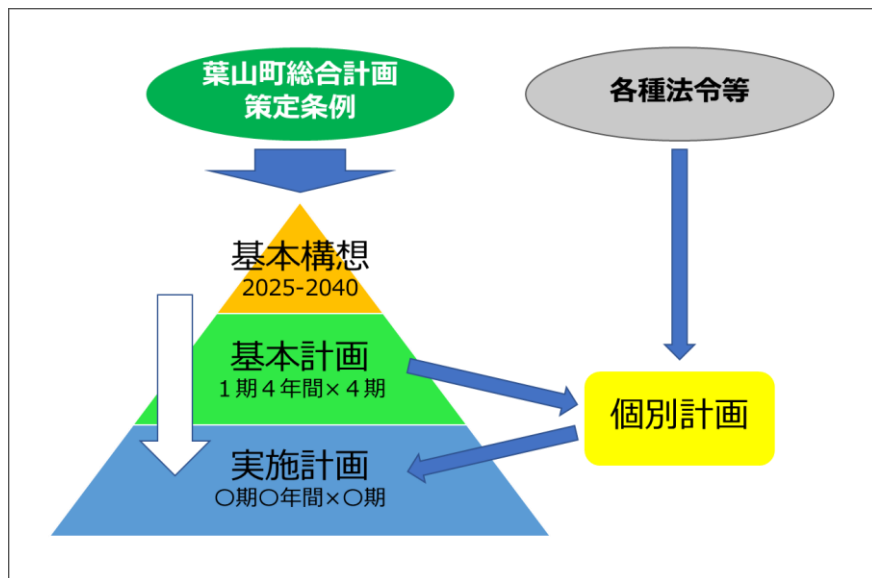


7. 計画の構成

1 計画の構成・期間

本計画は基本構想・基本計画・実施計画の3層構造とし、基本構想の計画期間は2025年度～2040年度までの16年間、基本計画は1期4年間、実施計画は〇期〇〇年間とします。

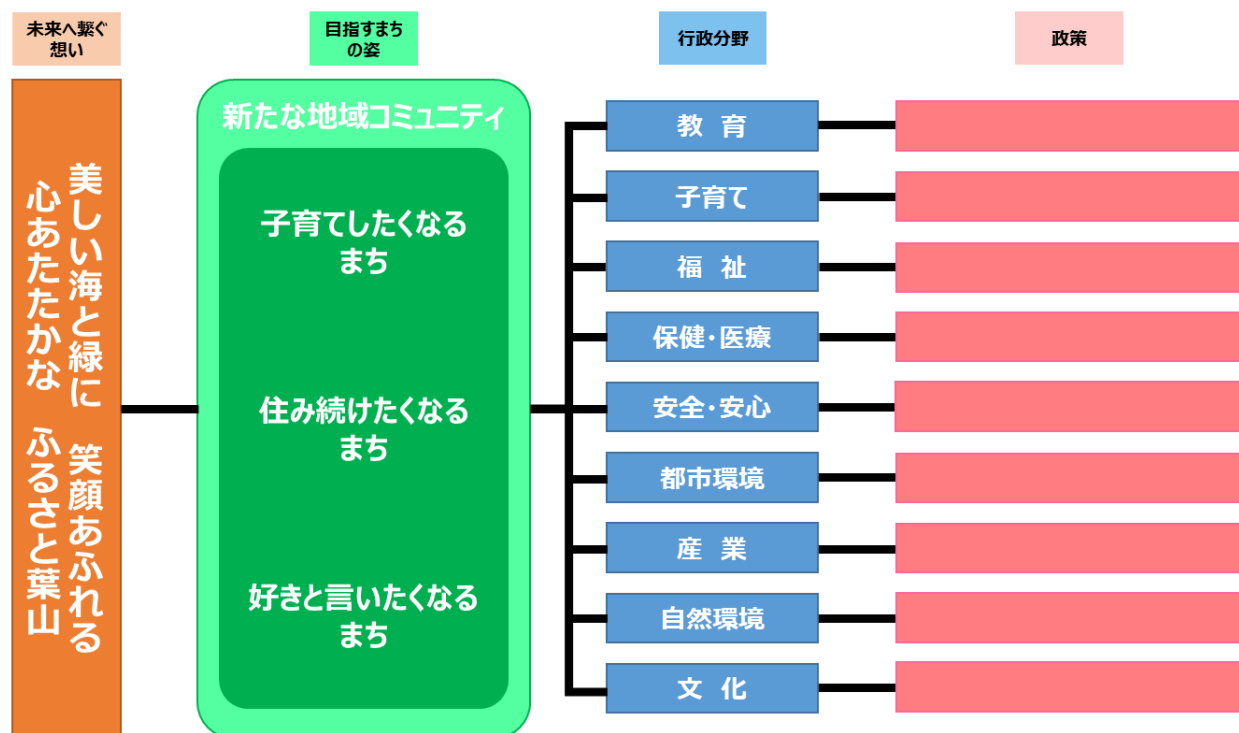
また、各行政分野の個別計画とも連動し、町の目指す姿を実現していくために、本計画の構成は次のとおりとします。



2 施策の体系

目指すまちの姿を実現するために、3つの目指すまちの姿にかかる9つの政策を掲げます。目指すまちの姿に係る行政分野においては、1つのみに関係するのではなく、複数に関係することから、分野横断的に目指すまちの姿に基づいた政策の推進をしていきます。そして、政策の推進によって実現した「新たな地域コミュニティ」を通じて、未来の葉山町へ想いを繋いでいきます。

施策の体系



8. 土地利用基本構想

都市計画課と記載するかを含めて検討します。